

N59b 超新星 SN1999by の CCD 測光観測

加藤伸彦、山本勲（岡山理科大工） 田辺健茲（岡山理科大総合情報）

今年の4月末に銀河NGC 2841中に発見された超新星SN 1999byの光度曲線を、冷却CCDを用いて測光し、光度曲線を得たので報告する。使用した観測装置は前回の年会（田辺他、1999年春季年会、京都大学）で報告したもの（口径21cmカセグレイン+ST6B+Johnson-Cousins BVR Iフィルター）である。観測は5月6日以降殆どすべての晴天夜に行い、上記のフィルターならびにNo Filterについてデータを取得した。測光データはIRAFのAPPHOTを用いて整約し、その上で同じフレーム内の2つの比較星に関して差測光を行った。その結果6月末までに得られた光度曲線は、IaまたはIb型超新星のものを示している。極大時のV等級が13.2等級であったことから、NGC 2841の後退速度として700 km/sという値を用いると、極大の絶対等級は-16.0から-17.5等となり（Hubble定数を100 h km/s・Mpcとした）、従来のIb型よりもやや暗い。他のフィルターによる測光の詳細、ならびに7月以降の振る舞いについては当日報告する。